

科目名	★博物館概論（1美デ）				開講学年	1	講義コード	1910101	区分	選択	
英文表記	Introduction to Museology				開講期	前期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	有木 芳隆（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間後の講義室				
メールアドレス	yoshi.ariki6056@gmail.com										
キーワード	博物館の役割に関する基礎的な知識 学芸員の役割に関する基礎的な知識 博物館法、博物館の歴史										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格を目指す学生の必修科目である。授業概要 1)博物館の基本的機能について学ぶ 2)わが国の博物館を規定している博物館法について学ぶ 3)博物館の種類、制度、国際的な規約と組織について学ぶ 4)博物館の起源と歴史、わが国の博物館の発達史について学ぶ 5)地域社会での博物館の役割と課題について学ぶ 6)生涯教育機関としての博物館の役割と学校教育に果たす役割について学ぶ 学修上の助言:博物館や美術館、動植物園等を訪れて展覧会等を鑑賞することが望ましい。 フィードバックとして、授業ごとに短いレポートを作成させ、次の授業でコメントを付して返付する。</p>							関連科目			
								1)日本美術史、西洋美術史、東洋美術史 2)生涯学習概論、博物館展示論、博物館教育論、博物館情報・メディア論、博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	博物館についての基礎的な理解と、人文科学分野の諸学問について基礎的な理解ができる。									
	②	博物館に係る美術史について基礎的な理解ができる。									
	③	博物館学の学修と社会を関連付け、将来の職業を含めた自分の人生を主体的にデザインすることができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	60	0	0	10	30	100		
教科書	特に指定しない										
参考書	授業のなかで適宜、紹介する										

予備知識	1)日本美術史および西洋美術史に関する一般的な知識 2)博物館、美術館に関する一般的な知識
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	1)受講生は毎回の講義でコメントシートを記入し提出する。講義者にとっては受講生の理解度を測るものであり、受講生にとっては授業内容を整理するものとなる。2)受講生は課題レポートを作成し提出する。課題レポートは授業全体に関わるもので、授業内容を整理し理解することができているか、それを論理的にまとめることができるかを測ることを目的とする。この科目の評価の重要な部分を占める。3)以上に加えて、授業受講態度等を加味して評価を行う。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	博物館とは何か(1)	対面	身近な美術館・博物館などを訪れて展覧会を鑑賞しまた研究することが望ましい	任意分
	内容	熊本県立美術館を実例として、博物館の定義と目的について学ぶ	講義		
2回	テーマ	博物館とは何か(2)	対面	同上	任意分
	内容	博物館の基本的機能と、学芸員の役割や博物館を支える人々について学ぶ	講義		
3回	テーマ	博物館法について	対面	博物館法を読むこと	30分
	内容	わが国の博物館を規定している博物館法について、その基本理念と諸制度について学ぶ	講義		
4回	テーマ	博物館学について	対面	事前に提示する博物館学についての資料を読むこと	30分
	内容	博物館学の目的と構成、研究方法等について学ぶ	講義		
5回	テーマ	博物館の種類	対面	事前に提示する博物館学についての資料を読むこと	30分
	内容	博物館の種類について収集資料や機能などの面から学ぶ	講義		
6回	テーマ	博物館制度について	対面	同上	30分
	内容	博物館・美術館の制度や国際的な規約、組織などについて学ぶ	講義		
7回	テーマ	博物館の歴史(1)	対面	同上	30分
	内容	博物館の起源と欧米の博物館発達史について学ぶ	講義		
8回	テーマ	博物館の歴史(2)	対面	同上	30分
	内容	日本の博物館の発達史と現代の博物館について学ぶ	講義		
9回	テーマ	地域社会と博物館(1)	対面	自分の出身地にある博物館・美術館について調べる	30分
	内容	地域社会と博物館の関係、地域文化財と博物館の役割について学ぶ	講義		
10回	テーマ	地域社会と博物館(2)	地面	熊本地震や令和2年球磨川洪水で被災した文化財について事前に配布する資料に基づいて調べる	30分
	内容	地域社会の文化財を護る博物館の役割、実例として熊本地震の文化財レスキューについて学ぶ	講義		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	現代社会と博物館	対面	身近な博物館・美術館などを訪れて展覧会を鑑賞しまた研究することが望ましい	任意分
	内容	生涯教育機関としての博物館、学校教育に果たす博物館の役割について学ぶ	講義		
12回	テーマ	博物館の仕事(1)	対面	事前に配布する資料を調べること	30分
	内容	展覧会の組み立ての実例と、展示の技術や機材について学ぶ	講義		
13回	テーマ	博物館の仕事(2)	対面	同上	30分
	内容	博物館の資料収集と保管管理の方法、取扱い技術について学ぶ	講義		
14回	テーマ	博物館の仕事(3)	対面	同上	30分
	内容	博物館の資料調査・研究、資料写真の撮影技術などについて学ぶ	講義		
15回	テーマ	現代博物館の課題	対面	同上	30分
	内容	現代博物館・美術館に期待されている事柄、博物館法や文化政策の変化に伴って求められる新しい博物館像について学ぶ	講義		

科目名	★博物館資料保存論（2美デ）			開講学年	2	講義コード	1910401	区分	選択		
英文表記	conservation of museum collection			開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	末永 崇（非常勤） 松本 博幸（非常勤）										
研究室	本館一階 非常勤講師控室					オフィス アワー 講義後の教室及び非常勤講師室					
メールアドレス	splits0926@gmail.com										
キーワード	博物館 美術館 資料 保存科学 文化財 リテラシー 論理力 キャリアデザイン能力										
授業概要	博物館に勤務することを想定して、資料保存に必要な保存科学の知識の習得を目的とする。また、博物館以外でも、資料（自分たちの制作した作品）をどのように取り扱うべきか、学芸員資格を持つ者としての必須の視点を養う。普段の生活のなかで、自分たちが関心を持つものを保存する際に、保存科学的な視点をどこまで持ち合わせられるか。例えば、自らがこれまで制作した作品を置いた場所を思い出し（アトリエ、教室、自分たちの部屋、実家等々）、より良い保存に適した環境に近づけるためには、何ができるのか、何かできることはないか、考えることによって、学芸員資格取得者だからこそ生まれる「資料保存に必要な視点」を身に着ける。講義中のレポートの結果は、適宜学生へフィードバックする。							関連科目			
								博物館関連科目全般（博物館概論、博物館経営論、博物館資料論、博物館展示論、博物館教育論、博物館実習）			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	データを理論的・多面的に分析・考察し、適切な表現方法で他者に説明できるようになる。身の回りの品の中にある資料の劣化が判る、気が付くことができる									
	②	個人で、または他者との討議を通じて、物事について論理的・多面的に思考することができるようになる。その資料の劣化原因を想定することができる									
	③	思考の結果を、文章または口頭で、筋道を立てて他者に伝達することができるようになる。その資料の取り扱い、保護環境改善のアイデアを構想することができる。その資料に対して、劣化原因を2つ以上、保存環境上評価できる点の一つ以上想定し、善後策を構想することができる									
	④	大学での学修と社会を関連付け、将来の職業を含めた自分の人生を主体的にデザインすることができるようになる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	20	0	10	10	100		
教科書	人文系博物館資料保存論 雄山閣 青木 豊 ISBN978-4-639-02219-0										
参考書	文化財の保存環境 中央公論美術出版 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 ISBN978-4-8055-0648-6										

予備知識	博物館、美術館に関する知識、日本史、世界史
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	講義の内容にそったテーマに関するレポートを作成し、提出する。講義中の感想、疑問等の発言、自ら美術館・博物館に赴いた経験に基づいたコメントは積極的に評価する。講義中のレポートの結果は、適宜学生へフィードバックする。

授業以外でもなるべく多くの美術館、博物館を訪れ、満足したところを記憶せずに記録すること。正規授業…授業開始15分まで/遅刻出席…授業開始30分まで/30分を超えた場合は欠席扱いとする。レポート等の提出のコピーアンドペーストなどの剽窃は、不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	資料保存の意義1	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	文化財保護史(古器旧物保存方～文化財保護法までの法制史)	講義		
2回	テーマ	資料保存の意義2	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	保存科学史	講義		
3回	テーマ	資料の劣化・損壊の原因1	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	震災の記録、大規模災害時における文化財の保護	講義		
4回	テーマ	資料の劣化・損壊の原因2	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	経年劣化、生物被害、火災、自然災害	講義		
5回	テーマ	資料保存の意識1—身近な場所での保存方法—	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	保存を想定した設計ではない建物(例:文化財資料室)内での事例紹介、身近な場所での資料保存の意識、工夫、或いは簡易な保存方法の事例解説	講義		
6回	テーマ	資料保存の意識2—歴史的・伝統的な保存方法—	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	土蔵、桐箱、曝涼等の伝統的保存方法と博物館収蔵庫の考え方、事例、正倉院等の温度変化、寺院仏閣における覆い屋保存の紹介	講義		
7回	テーマ	保存科学の役割1—博物館外—	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	文化財資料室、埋蔵文化財センター等博物館以外の施設における保存科学の役割、レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます	講義		
8回	テーマ	保存科学の役割2—博物館内—	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	文化財保護法における公開承認施設、国宝・重文展示の際の保存科学の役割、実習、環境調査時の使用機器と取扱い	実習		
9回	テーマ	資料の取扱いと収納1—博物館外—	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	文化財資料室などでの取り扱い、収納	講義		
10回	テーマ	資料の取扱いと収納2—博物館内—	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	内容 高湿度、中湿度、低湿度下で保管する資料の取り扱い、収納。資料を扱う心構え、実習 梱包の実際	実習		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元1	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	土器の接合、金属器の錆落とし等出土遺物の整理作業等、主に一次整理の説明	講義		
12回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元2	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	修理と復元、レプリカ展示の意味	講義		
13回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元3	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	鉄器、青銅器、木器等の保存処理	講義		
14回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元4	対面	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	15
	内容	不定期な大規模改修・燻蒸から、IPM、定期的な日常管理へ	講義		
15回	テーマ	博物館学芸員が持つ資料保存の理論を实践するには	対面	これまでの講義内容の整理、まとめを事前に行っておく	15
	内容	レポート執筆の時間に充てる。提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます	実習		

科目名	★博物館情報・メディア論（2美デ）				開講学年	2	講義コード	1910501	区分	必修	
英文表記	Museum Information and Media studies				開講期	前期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	永田 郁 坂本 尚文(非常勤) 関根 浩子										
研究室	本館1階 非常勤講師室 硯川棟202、101						オフィス アワー 授業終了後またはメール				
メールアドレス	sakamoto.nsts.riku.@gmail.com										
キーワード	情報リテラシー データリテラシー キャリアデザイン 美術館 博物館 テレビ インターネット 新聞										
授業概要	博物館情報メディア論は、比較的新しい分野であるが、急速に社会や環境の変化の中で、その価値観が問われている。また、他の分野との結び付きが深く基礎科目である。よって、基本的な活用科目として実践的授業を目指す。フィードバックは、3回のレポート(試験)に直接コメントするか、Teamsやsojo webclassでコメントすることによって行う。							関連科目			
								その他の全学芸員課程科目(概論、経営論、資料保存論、教育論、メディア論など)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	適切な方法で正しい情報を収集及び発信できる。									
	②	データを理論的・多面的に分析・考察し、適切な表現方法で他者に説明できる。									
	③	大学での学修と社会を関連付け、将来の職業を含めた自分の人生を主体的にデザインすることができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	90		0	10		100		
教科書	なし(講師作成資料)										
参考書	博物館情報・メディア論 ぎょうせい 共著 978-4-324-09584-3										

予備知識	日常の、芸術情報をよく考えて分析する。具体的には、ポスターやチラシなど細目に収集し、ファイリングをすること。また、現在開催されている博物館や美術展の展覧会などに注視しネットなどを通して検索しておく。よって、授業では、メディア情報を授業に取り入れるため幅広い情報収集を会得してディスカッションをする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	レポート(30×3本=90点)、ポートフォリオ(10点)

博物館学芸員資格の重要性を認識する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	進化する博物館・博物館情報・メディア論へのいざない	対面	自己紹介情報交換、情報論概論・1.メディア社会の博物館について	60
	内容	授業内容の進め方(オリエンテーション)・学会員になるためには。1.メディア社会の博物館。2.アミューズって何	講義		
2回	テーマ	それは洞窟から始まった【情報とメディアの歴史】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.情報メディアの発達 2.エレクトロニクス社会の登場	講義		
3回	テーマ	博物館はメディア【博物館とメディアの発展.史】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.市民の登場とメディアの技術 2.市民教育施設としての博物館 3.市民教育から参加へ 博物館のあらたな展開	講義		
4回	テーマ	人と人をつなぐメディアとしての博物館【情報とメディアの基礎理論】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.情報・メディアとはなにか 2.メディアと機能と三次元博物館展示 3.変貌する博物館の役割。アウトレットからノートへ	講義		
5回	テーマ	心は環境の中に:博物館【情報メディアの心理と学習理論】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.知覚心理学の流れ 2.認知心理学の発展 3.展示におけるデフォーダンス	講義		
6回	テーマ	新たなメディアへのいざない【博物館メディアリテラシー】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.教育におけるメディア利用のさまざまなまなびのイノベーション 2.タブレット型端末の活用 3.メディアリテラシー	講義		
7回	テーマ	モノが語る・メディアが語る【メディアを活用したさまざまな展示手法】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.メディアの展示手法の構造 2.映像展示のさまざま 3.実物展示のさまざま 4.インターネットの活用	講義		
8回	テーマ	世界とつなぐ博物館【情報収集から情報発信へ】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.世界とつなぐインターネット 2.博物館とインターネット	講義		
9回	テーマ	のぞいてみようみよう収蔵庫【デジタルアーカイブ】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.デジタルアーカイブの種類 2.アーカイブの作成技術とその課題 3.デジタルアーカイブの管理と運営	講義		
10回	テーマ	メディアは身体【メディアによるユニバーサル】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.あらゆる人がアクセスできる博物館をめざして 2.さまざまな障がい(害)をこえて 3.多文化教育のために	講義		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	それって誰のもの？ 【情報とメディアの法的な問題】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.学校との連携でのメディアの役割 2.地域メディアとのコラボ 3.アウトリーチ教材	講義		
12回	テーマ	つながる・つなげる博物館 【地域のメディア連携】	対面	配布資料を基に基本的な考え方を思考する。講義の中で考えたことをまとめる。	60
	内容	1.学校との連携でのメディアの役割 2.地域メディアとのコラボ 3.アウトリーチ教材	講義		
13回	テーマ	【展覧会の企画 図録 企画から編集まで】	対面	12回の講義をさらに応用して具現化する	60
	内容	各自のプレゼンテーションとグループミーティング	演習		
14回	テーマ	【ワークシートづくり】	対面	12回の講義をさらに応用して具現化する	60
	内容	各自のプレゼンテーションとグループミーティング	演習		
15回	テーマ	【アウトリーチをつくってみよう】	対面	12回の講義をさらに応用して、具現化する	60
	内容	各自のプレゼンテーションとグループミーティング	演習		

科目名	★博物館実習（3美デ）（通年）				開講学年	3	講義コード	1910901	区分	必修	
英文表記	Museum Practicum : 3rd year				開講期	通年	開講形態	対面	単位数	3	
担当教員	関根 浩子										
研究室	硯川棟105						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	協働性 キャリアデザイン アントレナークシップ 学外活動の反映力 情報リテラシー										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格を取得するための必修科目であり、学外館園実習に行く前に履修を開始していなければならない科目でもある。学芸員課程において学んだ理論や知識、技術を生かして学内並びに学外の館園で実体験することで、多様な館種の実態を理解するとともに、学芸員として必要とされる知識や技術等の基礎、基本を習得する。配布する資料を予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して下記に掲げた参考書を自主的に参照すること。また、授業時間内で作成できなかった課題は図書館や自宅等で時間を完成させること。フィードバックは、提出されたレポートにコメント入れや赤入れをする形で行う。</p>							関連科目			
								学芸員課程全科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	所属する組織・集団の目標を達成するために、自らの意見を主張しつつ多様性を理解して、他者と協働して課題に取り組むことができる。									
	②	大学での学修と社会を関連付け、将来の職業を含めた自分の人生を主体的にデザインすることができる。									
	③	個人の強みとなる創造力と実践力を習得し、独創的な提案を立案・実行することができる。									
	④	専門領域に関する学外での活動を体験し、自身の作品制作に反映させることができる。									
	⑤	適切な方法で正しい情報を収集及び発信できる。									
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	0	0	10	60	100		
教科書	授業の中で適宜配布する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	学芸員課程全科目
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	見学実習後に提出させるレポートや学内実習における積極性、ポートフォリオ、館園実習先の評価、事前・事後指導時の評価、出席状況を総合して評価する。

原則として、「博物館実習」以外の全での学芸員養成科目が履修済みであることが履修の条件である。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス1	対面	なし	0
	内容	学芸員課程・博物館実習ガイダンス①(4月)	講義		
2回	テーマ	仕事の概要	対面	予習は不要。2回目授業の復習	30
	内容	学芸員の仕事1	講義		
3回	テーマ	仕事の概要	対面	予習は不要。3回目授業の復習	30
	内容	学芸員の仕事2	講義		
4回	テーマ	特別展準備	対面	4回目授業の復習、企画書作成・立案	90
	内容	展覧会の種類、企画・立案	講義 実習		
5回	テーマ	特別展準備	対面	5回目授業の復習、企画書作成・立案	60
	内容	特別展の企画・立案、企画書作成1	講義 実習		
6回	テーマ	特別展準備	対面	企画案作成	0
	内容	企画書作成2、担当決定、作品・資料の選定	R-P SGD		
7回	テーマ	学外見学実習1	対面	レポート作成(復習)	90
	内容	学外見学会1回目(近隣の美術館等でのレクチャー受講、見学)	実習 AL PBL		
8回	テーマ	見学会結果報告	対面	なし	0
	内容	見学会1の結果報告、レポート提出・添削	PBL		
9回	テーマ	展覧会準備	対面	9回目授業の復習	30
	内容	出品交渉・依頼方法、借用書の作成	実習 AL		
10回	テーマ	資料の取り扱い	対面	10回目授業の復習	30
	内容	第一次資料(考古・美術作品・古文書等)の取り扱い1	講義 実習 AL		

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	資料の取り扱い	対面	11回目授業の復習	30
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の取り扱い②			
12回	テーマ	資料の梱包	対面	12回目授業の復習	30
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の梱包			
13回	テーマ	資料の計測・実測	対面	13回目授業の復習	30
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の実測、調書作成の計測			
14回	テーマ	資料の写真撮影	対面	なし	0
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の写真撮影1			
15回	テーマ	資料の写真撮影	対面	なし	0
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の写真撮影1			
16回	テーマ	ガイダンス2	対面	なし	0
	内容	博物館実習ガイダンス②、第1回事前指導関連書類配布(3年次)(7月)			
17回	テーマ	学外見学実習2	対面	レポート作成(復習)	90
	内容	学外見学実習2回目(近隣の美術館等でのレクチャー受講、見学)			
18回	テーマ	見学実習報告	対面	なし	0
	内容	学外見学実習報告・レポート作成・添削②			
19回	テーマ	画像・情報のデジタル化	対面	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	90
	内容	第二次資料の画像・情報のデジタル化1			
20回	テーマ	画像・情報のデジタル化	対面	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	90
	内容	第二次資料の画像・情報のデジタル化2			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	第1回事前指導	対面	なし	0
	内容	第1回事前指導(実習申込書提出、希望する実習先に関する報告)(9~10月)	講義		
22回	テーマ	資料・作品カード作成	対面	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	
	内容	デジタル化したデータを用いた資料・作品カード作成1	実習 AL		
23回	テーマ	資料・作品カード作成	対面	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	
	内容	デジタル化したデータを用いた資料・作品カード作成2	実習 AL		
24回	テーマ	学外見学実習3	対面	レポート作成(復習)	90
	内容	学外見学実習(3回旨)(近隣の美術館等でのレクチャー受講、見学)	実習 AL		
25回	テーマ	見学実習報告	対面	なし	0
	内容	学外見学実習報告・レポート作成・添削3	PBL		
26回	テーマ	特別展準備	対面	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(ポスター、リーフレット、図録等の原稿作成、原稿執筆依頼)	実習 AL		
27回	テーマ	特別展準備	対面	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(マスコミ、他への広報)	実習 AL		
28回	テーマ	特別展準備	対面	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(解説パネル、キャプションの原稿作成、印字)1	実習 AL		
29回	テーマ	特別展準備	対面	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(解説パネル、キャプションの原稿作成、印字)2	実習 AL		
30回	テーマ	特別展準備	対面	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(展示台、展示ケース等の作製・準備)	実習 AL		

科目名	★博物館実習（4美デ）（通年）				開講学年	4	講義コード	1910902	区分	必修		
英文表記	Museum Practicum : 4th year				開講期	通年	開講形態	対面	単位数	3		
担当教員	関根 浩子											
研究室	硯川棟105						オフィス アワー 金曜放課後					
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	協働性 キャリアデザイン アントレナージュ 学外活動の反映力 情報リテラシー											
授業概要	<p>本科目は学芸員資格を取得する上で必ず履修しなければならない必修科目の一つである。学芸員課程において学んだ理論や知識、技術を生かして学内並びに学外の館園で実体験することで、多様な館種の実態を理解するとともに、学芸員として必要とされる知識や技術等の基礎、基本を習得する。配布する資料を予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して下記に掲げた参考書を自主的に参照すること。また、授業時間内で作成できなかった課題は図書館や自宅等で時間を完成させること。フィードバックは、実習後の事後指導時に併せて行う。</p>								関連科目			
									学芸員課程全科目			
教職関連区分									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	所属する組織・集団の目標を達成するために、自らの意見を主張しつつ多様性を理解して、他者と協働して課題に取り組むことができる。										
	②	大学での学修と社会を関連付け、将来の職業を含めた自分の人生を主体的にデザインすることができる。										
	③	個人の強みとなる創造力と実践力を習得し、独創的な提案を立案・実行することができる。										
	④	専門領域に関する学外での活動を体験し、自身の作品制作に反映させることができる。										
	⑤	適切な方法で正しい情報を収集及び発信できる。										
	⑥											
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計			
	0	0	0	30	0	0	10	60	100			
教科書	授業の中で適宜配布する											
参考書	授業の中で適宜配布する											

予備知識	学芸員課程全科目
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	見学実習後に提出させるレポートや学内実習における積極性、ポートフォリオ、館園実習先の評価、事前・事後指導時の評価、出席状況を総合して評価する。

原則として、「博物館実習」以外の全での学芸員養成科目が履修済みであることが履修の条件である。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなします。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	対面	なし	0
	内容	学芸員課程・博物館実習ガイダンス(4月)			
2回	テーマ	保険料算出	対面	復習	30
	内容	展示品の保険料の算出			
3回	テーマ	特別展準備	対面	担当分が遅れている人は放課後も作業	90
	内容	展示準備(原稿の出力、のりハネ作成、カットイング、ほか)			
4回	テーマ	特別展準備	対面	なし	00
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)			
5回	テーマ	特別展準備	対面	なし	0
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)			
6回	テーマ	特別展準備	対面	なし	0
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)			
7回	テーマ	特別展準備	対面	なし	0
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)			
8回	テーマ	特別展撤収	対面	なし	0
	内容	特別展の撤収(崇城大学ギャラリー一展利用)			
9回	テーマ	特別展撤収	対面	なし	0
	内容	特別展の撤収(崇城大学ギャラリー一展利用)			
10回	テーマ	特別展撤収	対面	なし	0
	内容	特別展の撤収(崇城大学ギャラリー一展利用)			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間~10日前後)における受入れ先での実習)	実習		
12回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間~10日前後)における受入れ先での実習)	実習		
13回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間~10日前後)における受入れ先での実習)	実習		
14回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間~10日前後)における受入れ先での実習)	実習		
15回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習指定された期間(1週間~10日前後)における受入れ先での実習	実習		
16回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習指定された期間(1週間~10日前後)における受入れ先での実習	実習		
17回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習指定された期間(1週間~10日前後)における受入れ先での実習	実習		
18回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間~10日前後)における受入れ先での実習)	実習		
19回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間~10日前後)における受入れ先での実習)	実習		
20回	テーマ	学外館園実習	対面	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間~10日前後)における受入れ先での実習)	実習		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	事後指導	対面	なし	0
	内容	事後指導 館園実習結果報告(個別面談による事後指導)I(10月~)	講義 演習		
22回	テーマ	事後指導	対面	なし	0
	内容	事後指導 館園実習結果報告(個別面談による事後指導)I(10月~)	講義 演習		

科目名	★生涯学習概論（1美デ）				開講学年	1	講義コード	2910201	区分	必修	
英文表記	Introduction to Lifelong Learning				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	本村 由紀博（非常勤）										
研究室	本館 1階 非常勤講師室						オフィス 授業時間前後の非常勤講師室、TEA アワー MS等メール				
メールアドレス	yymoto66@gmail.com										
キーワード	生涯学習 生涯学習社会 教育基本法 学芸員 社会教育 学習課題 青少年教育施設 美術館 博物館 図書館										
授業概要	<p>・科学技術の進歩、情報化、国際化をはじめ、少子高齢化など社会的課題が山積している。そのような社会的課題の解決に向け、日本国においては、戦後60年ぶりとなる教育基本法が平成18年に改正されている。この中で、新しい時代に求められる教育の目的・理念が示され、第3条には、「生涯学習の理念」が新たに追加された。その条文には、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と規定され、国をあげて、生涯学習社会の構築による様々な社会的課題の解決に向けた取組が進められる仕組みが構築されることとなった。・本講座では、「生涯学習とは何か?」、「生涯学習がどのようにして、世界中に広がってきたのか」等、歴史的な変遷について、演習やSGD(Small Group Discussion)を通して、主体的・対話的で深い学びができるようにしていく。・これからの世界は、これまで以上にグローバル化し、予測不可能な、変化の激しい社会へと変貌していく。そのような社会に柔軟に適応して、困難な時代を心豊かに生きていくためには、常に一人一人が「個人の要望」と「社会の要請」のバランスを考えながら学び続けなければならない。本講座の受講を通じて、生涯学習や学芸員に関する教養的知識に加え、様々な他者と協働して物事を解決する論理力やコミュニケーション能力、自らの生き方について考えるキャリアデザイン能力も深めていく。・評価については、毎回の講義中のSGD(Small Group Discussion)や演習での発表、レポート及び15回の講義終了後の試験をもとに行う。また、発表やレポート等の結果については、授業中及びTeams等を活用し適宜学生へフィードバックする。</p>								関連科目		
	<p>本講座「生涯学習概論」では、博物館概論、博物館資料保存論、博物館情報・メディア論、博物館展示論、博物館経営論、博物館資料論及び博物館実習の科目と併せて受講者の理解を深めていく。</p>								建築学科のみ	建築総合	建築計画
教職関連区分							学修・教育目標				
							JABEE基準				
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	専門的職員としての学芸員の使命と果たす役割について、生涯学習の観点から具体的に説明することができる。									
	②	生涯学習の歴史的経緯や今後の方向性について法令や答申等をまとめ、説明することができる。									
	③	講義中のSGD(Small Group Discussion)、演習等で、自分の考えを伝えたり、協働して課題解決をすることができる。									
	④	大学での学修と社会を関連付け、将来の職業を含めた自分の生き方をデザインすることができる。									
	⑤	講義で学んだことを、課題レポートに文章で筋道を立てて記述することができる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	50	0	25	15	0	10	0	100		
教科書	担当教員作成のテキスト「生涯学習概論」										
参考書	生涯学習・社会教育行政必携 第一法規 978-4-474-06765-3 生涯学習概論 樹村房 鈴木眞理・馬場祐次朗・葉袋秀樹他 978-4-88367-230-1										

予備知識	<p>ユネスコは1946年に創設され、今日では一般的となっている生涯学習もその活動の一環としてユネスコが提唱した概念の一つである。我が国における生涯学習は、1981年(昭和56年)中央教育審議会答申「生涯学習について」をはじめ、1985年(昭和60年)から第4次にわたる臨時教育審議会答申(生涯学習体系への移行)、1990年(平成2年)6月のいわゆる「生涯学習振興法」成立等により、生涯学習推進の必要性が高まってきたところである。その後、中央教育審議会・生涯学習審議会・大学審議会等の答申が出され、平成18年に改正された教育基本法の第3条に「生涯学習の理念」が新設されることとなった。さらに平成30年の中央教育審議会「第3期教育振興基本計画について(答申)」が公示され、「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する」、「社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する」、「生涯学び、活躍できる環境を整える」、「誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する」、「教育政策推進のための基盤を整備する」ことの5点が基本方針として明示され、国内における生涯学習の重要性がこれまで以上に注目されることになった。本講座を通じて、生涯学習社会の構築に向けた専門的職員(学芸員)として、多様な学び手に生涯学習の観点からの豊かな学びをどのように提供できるか一人一人の教養的知識を広げていく。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>・16回目に定期試験を実施し、15回にわたる講義内容について理解することができたのかを評価する。また、講義に関する課題を毎回提示するので、必ず提出すること。提出したレポートについては、あらかじめ示した評価基準に従い5段階で評価し、コメントを加えてフィードバックする。・評価基準は次の5点である。「1 設問の趣旨を踏まえ、自らの考えを述べている。2 記述に関して、自分の経験や体験を振りかえり具体的に述べている。3 記述の根拠とした出典等を明示し、論理的な記述ができている。4 レポートの体裁、分量を意識した記述ができている。5 提出日を遵守できている。」・生涯学習は、その理念を具体的にどのように実践するのが求められており、講義中の演習、SGD等での発言等を成果発表として評価する。</p>

・本講義は、ユネスコの生涯学習理念及び日本の教育基本法、第3条「生涯学習の理念」を踏まえ、生涯学習社会の構築を目指すうえで、学芸員になるための資質、能力の育成を目指す人材を育成することを目的としている。そのため、学習者の積極的な参画による講義を進めていく。・正規出席については授業開始15分以内、遅刻出席については授業開始30分までとする。30分を超えた場合は欠席扱いとする。・レポート等の作成においては、引用した資料については、出典、参考文献等を明らかにするとともに、他人のレポート等のコピー&ペーストなど、剽窃行為は、不正行為とみなし受講を取り消すこともあるので、厳に慎むこと。・コロナ等の感染拡大に伴い、やむを得ずオンデマンド型授業を実施する場合は、配付する資料をもとに講義を行う。質問等については、Teamsのチャット機能を使用し、質問等に答えていく。・病気等により欠席の場合は、必ず事前に連絡をすること。その際、配付の資料を読み、自分で学習し、レポートを提出した場合は加点する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション	対面	「博物館法」を読んで、これからの学芸員に求められる専門性についてまとめておく。	60分
	内容	～学芸員の果たす役割と学芸員に求められる資質・能力とは～「生涯学習概論」で身に付けるべきゴールが分かる。	講義・演習及びSGD（Small Group Discussion）		
2回	テーマ	学ぶことと世界平和	対面	日本国憲法前文を読んでおく。生涯学習が平和を守るとはどういうことか考え、自分なりの意見をまとめておく。	60分
	内容	～ひどい戦争をするのか～日本国憲法前文に込められた思いや教育基本法や社会教育法制定について知る。	講義・演習及びSGD		
3回	テーマ	権利獲得の道	対面	世界人権宣言や子どもの権利条約を読んでおく。自分にとって学ぶ権利とは何かについて、自分なりの意見をまとめておく。	60分
	内容	～私たちの生きるための権利とは～「マグナカルタ」から世界人権会議までの資料を読み、人間の基本的権利について知る。	講義・演習及びSGD		
4回	テーマ	世界における生涯学習のはじまり	対面	ユネスコの生涯学習理念を読んでおく。自分は何を学んでいるのか「学ぶことの意義」をまとめておく。	60分
	内容	～ユネスコ憲章から私たちは何を学ぶか～「ポール・ラングラン」「生涯教育」、エドガー・フォール「未来の学習」、ジャック・ドロー「学習：秘められた宝」について知る。	講義・演習及びSGD		
5回	テーマ	日本における社会教育・生涯学習（昭和編）	対面	文部科学省HPの中央教育審議会答申、臨時教育審議会答申等を読んでおく。	60分
	内容	～日本における生涯学習のはじまり～昭和の時代の社会教育審議会答申、中央教育審議会答申、臨時教育審議会答申等から日本における生涯学習の流れ、変遷を知る。	講義・演習及びSGD		
6回	テーマ	日本における生涯学習（平成編）	対面	文部科学省HPの中央教育審議会答申・生涯学習審議会答申等を読んでおく。社会教育法等の法令についてまとめておく。	60分
	内容	～日本における生涯学習の深まり～平成の中央教育審議会答申、生涯学習審議会答申等から日本における生涯学習の流れ、変遷を知る。	講義・演習及びSGD		
7回	テーマ	日本における生涯学習（令和編）	対面	文部科学省HPの教育基本法等の法律の改正についてまとめておく。	60分
	内容	～日本における生涯学習のこれから～中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）が目指すもの（個別最適な学び、協同的な学び、GIGAスクール構想等）を知る。	講義・演習及びSGD		
8回	テーマ	学校・家庭・地域の教育力 ～家庭の教育力～	対面	文部科学省HPの平成10年代の審議会答申を読んで、青少年を取り巻く様々な問題についてまとめておく。	60分
	内容	～教育基本法第10条の意義について～自分の自立度について考える。青少年の健全育成、家庭教育の重要性について考える。	講義・演習及びSGD		
9回	テーマ	学校・家庭・地域の教育力 ～地域の教育力～	対面	文部科学省HPの平成20年代の審議会答申を読んで、教育の新しい流れについてまとめておく。	60分
	内容	～教育基本法第13条の意義について～体験活動の重要性について考える。コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の取組について考える。	講義・演習及びSGD		
10回	テーマ	生涯学習のまちづくり	対面	熊本県や各市町村のHPを見て、地域の「人・もの・こと」についてまとめておく。	60分
	内容	～熊本の「ひと・こと・もの」の活用について～地域の特産物をまちづくりにどう活かすか考える。	講義・演習及びSGD		

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	社会的課題を解決する その1 ～負の遺産の継承～	対面	社会問題を解決するために活動している著名人のメッセージを読んでおく。	60分
	内容	～人類の未来をどう守るか～ 国内をはじめ、世界に残る負の遺産を守る意味について考える。持続可能な開発目標(SDGs)について調べ、その解決方法を考える。	講義・演習及びSGD		
12回	テーマ	社会的課題を解決する その2 ～世界遺産の意義～	対面	文部科学省HP「第3期教育振興基本計画」を読んで、自分自身は何を学び続けるのかに気づき、考え、まとめておく。	60分
	内容	～世界遺産の意義について～ 「ユネスコ憲章の前文に示された「人の心の中に平和のとりでを築く」の意味について考える。	講義・演習及びSGD		
13回	テーマ	生涯学習施設としての美術館や博物館の今後の方向性	対面	「文化財保護法」を読んで、学芸員として文化芸術を守るために必要なことをまとめておく。	60分
	内容	～日本の芸術文化を守る～ 県内の美術館や博物館の取組について知り、過去から未来へつなぐ国内の代表的美術館の取組から学ぶ。	講義・演習及びSGD		
14回	テーマ	生涯学習指導者(学芸員)としての役割	対面	文化庁のHPを見て、学芸員として何が出来るかをまとめておく。	60分
	内容	～学芸員として文化・伝統を守る～ 文化財保護法、改正博物館法をもとに、今後の博物館、美術館等の役割を理解する。	講義・演習及びSGD		
15回	テーマ	生涯学習と自己のキャリア形成	対面	2030年、そのとき世界はどうなっているのか、生涯学習指導者として、また自分にとって必要な社会を生き抜く力とは何かをまとめておく。	60分
	内容	～大学での学修と社会を関連付け、自分の生き方をデザインする～ これからの社会で生き抜く生涯学習指導者として、大学での学びをどう生かしていくかその方向性をまとめ、公表する。	講義・演習及びSGD		
16回	テーマ	定期試験			
	内容	定期試験	記述式		

科目名	★博物館教育論（1美デ）				開講学年	1	講義コード	2910301	区分	必須	
英文表記	Museum Education				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	西住欣一郎（非常勤） 永田郁										
研究室	本館1階 非常勤講師室 硯川実習棟（北キャンパス）						オフィス アワー 授業時間後の非常勤講師室				
メールアドレス	k8330712@yahoo.co.jp										
キーワード	博物館の理想的なあり方 博物館の多様な活用事例 利用者主体の博物館										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格の取得をめざす学生の必須科目となっており、博物館の学芸員としての必要不可欠な基礎的知識の一つである。博物館来館者の人々が、博物館によって提供される様々な教育機会を有効的に活用できるようになるには、学芸員の支援が必要である。本科目は学芸員として、その支援ができる能力・技術を身につけるための入門講座である。講義では歴史民俗博物館、美術館、文学館、動植物園、科学館などの様々な博物館の教育的機会を提供してきた先進的な事例を中心に紹介する。さらに、教育機会の理論的な根拠となる教育学の基礎的なことも考察する。講義を通して、博物館教育の基礎とエッセンスを受講者が理解することで、博物館を教育的に活用できる能力をもった学芸員となることができる。このことは来館者と博物館の展示・資料を教育的に結び付けることになり、実社会で生活している人々の生涯学習への欲求を満ち、創造的な生活を営むために必要な学習の場を提供する役割をもつ。</p>							関連科目			
								生涯学習概論（基礎科目）博物館概論（連携科目）博物館資料保存論、博物館情報・メディア論、博物館経営論、博物館資料論、博物館展示論、博物館実習（発展科目）			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	博物館が提供する教育機会の内容を把握することができる。									
	②	博物館の教育的活用が来館者の創造的未來を築く一つの要素であることを理解することができる。									
	③	受講者同士で協議して取り決めた目標（プログラム）を達成するために、自らの意見（考え）を主張しつつ多様性を理解して、他者と協働して課題に取り組むことができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	60	30	0	10	0	100		
教科書	使用しない 講義資料を提供する										
参考書	なし										

予備知識	博物館や美術館などを見学し、その実態に触れることで、講義内容の理解が円滑にできる。
実務経験のある 教員	
評価明細 基準	第1から10回(西住先生)60点、第11から16回(永田)30点、学習到達度レポート10点の計100点で採点する。西住先生担当:講義内容に関連した2~3問の課題レポートを提出してもらおう。そのレポートの記述内容について、学芸員として必要な知識の理解度を評価基準として採点する。永田担当:博物館教育としてのワークショップ、プログラムを理解した上で、計画した実施プログラムが計画・実施できたかを評価基準として採点する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	博物館教育の理念	対面	博物館や美術館の様子を見実する(予習)	40
	内容	博物館の目的と資料の種類について学習し、利用者の活動内容についても概観する。	講義・演習		
2回	テーマ	博物館展示の教育的意義	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	博物館展示の本質から導き出される教育的意義について、利用者側と博物館側の両方に触れながら考察する。	講義・演習		
3回	テーマ	展示と来館者をつなぐ	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	博物館から発信するメッセージの伝達媒体である二次資料を鑑賞を補助する教材として取り上げ、具体的な事例を紹介しながら考察する。	講義・演習		
4回	テーマ	ワークショップー人文科学系博物館ー	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	人文科学系博物館プログラムの中で、来館者の主体学習・相互学習を中心にしたワークショップについて考えてみる。	講義・演習		
5回	テーマ	美術館でのプログラム	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	美術館での教育活動をとりあげる。美術館での学習の中心である鑑賞を補助するワークショップ、ギャラリートークなどを紹介し、そのあり方を検討する。	講義・演習		
6回	テーマ	家族と博物館	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	家族が博物館の対象グループとして意識され、プログラムが開発されたのは最近のことである。家族と博物館の効果的な連携を可能にする博物館教育のあり方について考察する。	講義・演習		
7回	テーマ	地域と博物館	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	生活に密接した地域での博物館の活動を通して、新たな視点で地域が捉え直されている。利用者と地域の文化資源を結び付け、地域の人々に還元する循環の重要性について検討する。	講義・演習		
8回	テーマ	アクセス可能で利用しやすい博物館	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	障害のある人のニーズに対応する博物館教育は、鑑賞の前提となる知覚や学習法などの知見が必要である。このことは、あらゆる人向けの教育に通じる。先進的な取り組みを紹介しながら、アクセス可能な博物館について考察する。	講義・演習		
9回	テーマ	博物館教育活動と評価	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	近年、博物館は教育施設としての評価が求められるようになってきた。米国の来館者研究や日本での評価の事例を紹介し、その意義と課題について考える。	講義・演習		
10回	テーマ	九州の原始美術(6・7世紀の装飾古墳)の再認識	対面	講義の復習(復習)	20
	内容	熊本県は装飾古墳の数が日本で、古墳文化の中でも特異な存在である。その装飾文様をデザイン的な視点でとらえ、野外美術館・博物館としての利用を検討してみる。その際、阿蘇凝灰岩の文化との関連も考える。	講義・演習		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	ワークショップ・美術館プログラムの実践課題事例研究(1)	対面	講義の復習(復習)	90
	内容	4.ワークショップ, 5.美術館のプログラムの講義内容を踏まえ、各自事例をリサーチする。	講義・演習		
12回	テーマ	ワークショップ・美術館プログラムの実践課題事例研究(2)	対面	実施案に向けての準備	90
	内容	各自リサーチした結果を発表し、その上で実施したい実施したいプログラムをブレインストーミングする。	演習・SGD・PBL		
13回	テーマ	実演プログラム実施シミュレーション(1)	対面	発表の準備	90
	内容	各自実施したいプログラムの実施計画書を作成する	演習・PBL		
14回	テーマ	実演プログラム実施シミュレーション(2)	対面	決定したプログラムの検討・準備	90
	内容	各自計画案を発表し、その上で議論して実施するプログラム案を一つに決定する。	演習・SGD・PBL		
15回	テーマ	プログラム実演に向けて準備・実演(予定)	対面	実演に向け準備	180
	内容	確定したプログラムについて実現化に向けて、協働して事業計画、予算見積り作成	演習・SGD・PBL		
16回	テーマ	プログラム実演	対面	実演後、反省、改善点などをまとめる。	180
	内容	実際にプログラムをどこかでやってみる(地域、校内、Sojo Galleryなど)。	演習・SGD・PBL L 講評		

科目名	★博物館経営論（2美デ）			開講学年	2	講義コード	2910601	区分	必修	
英文表記	Theory of Museum Management			開講期	後期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	清田純一（非常勤）									
研究室	芸術学部棟 1階事務室					オフィス アワー 授業終了後の非常勤講師控室				
メールアドレス	kiyotar02@icloud.com									
キーワード	博物館運営 博物館経営									
授業概要	<p>本科目は、学芸員資格取得を目指す学生の必修科目となっている。博物館を経営という視点から見えていく。学芸員となった場合の基礎的な知識と技術を理解し身につける。フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付し返却する形で行う。</p>						関連科目			
							その他の全学芸員課程科目			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	博物館を博物館経営の面から見る方法論を十分理解することが出来るようになる								
	②	博物館をめぐる社会状況について十分理解出来るようになる								
	③	博物館の面には現れない事象について理解できるようになる								
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計	
			40	40			10	10	100	
教科書	授業の中でその都度、教示する									
参考書	ミュージアム・マネージメント博物館運営の方法と実践 東京堂出版									

博物館教育論・博物館概論・博物館情報メディア論・博物館展示論・博物館資料論・博物館資料保存論

予備知識

実務経験
のある
教員評価明細
基準

基礎的な事項から講義を積み重ねていくので、授業に出席し、講義を聞くことが必要である。授業の取得の評価は、小テストやレポートの他、授業中の受講態度で判断するので、授業への積極的な参加が望まれる。

同上。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	博物館経営とは	対面	配布資料の復習	90
	内容	経営学の立場から「経営」とは何かを説明したのち、博物館の「経営」の範囲を見ていく。	室内講義		
2回	テーマ	博物館を取り巻く人々と社会	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館の価値と公共性、博物館への公的支援の根拠、博物館広報の在り方等について講義する。	同		
3回	テーマ	博物館の人材、行財政	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館が社会的機能を果たすための制度、組織人材や行財政制度、個別の予算システム等についてその現状と課題について講義する。	同		
4回	テーマ	博物館経営①；国立博物館	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館の財務情報を通じて国立博物館の経営を開示し、財務諸表の数値に基づき独立行政法人科以降の国立博物館の財政状態について理解を深める。	同		
5回	テーマ	博物館経営②；公立博物館	対面	配布資料の復習	90
	内容	公立博物館のマネジメントについて、指定管理者制度導入の博物館、直営の博物館にの例を取り上げ今後の地域博物館のあり方について考える。	同		
6回	テーマ	博物館の経営③；民間の博物館	対面	配布資料の復習	90
	内容	民間の博物館経営；運営の特徴を把握し、それが公立の博物館にとって、どのような点で参考になるか考える。	同		
7回	テーマ	博物館の経営④；企業博物館	対面	配布資料の復習	90
	内容	公的な性質を有した主体が設立した博物館と企業博物館の違いについて、CSR、企業博物館の分類について講義する。	同		
8回	テーマ	博物館の経営手法①；マーケティングと利用者調査の手法	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館の経営形態(3)マーケティングの基本的枠組みを紹介し、博物館の求められている経験について検討し、利用者調査について具体的な事例を紹介する。	同		
9回	テーマ	博物館の経営手法②；使命と評価	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館に評価が導入された背景、評価の際の重要性、および博物館を評価する手法およびシステムについて紹介する。	同		
10回	テーマ	博物館における連携①；他館・他機関・学協会	対面	配布資料の復習	90
	内容	他館、他機関、学協会との連携について相乗効果や新たな価値の創造の視点から説明する。	同		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	博物館における連携②市民・地域社会その1	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館の運営にどうして、市民や地域社会との連携がいかに重要であるかを生涯学習と地域振興の視点から解説する。	同		
12回	テーマ	博物館における連携③市民・地域社会その2	対面	配布資料の復習	90
	内容	ボラジティ・市民・地域社会といった博物館における連携について、連携相乗効果・新たな価値の創造といった視点から説明する。	同		
13回	テーマ	博物館における危機管理	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館におけるリスク・マネジメントについて博物館の直面する事象を基に説明する。	同		
14回	テーマ	博物館倫理・行動規範	対面	配布資料の復習	90
	内容	博物館関係者に求められる職業倫理について代表的な倫理規定とその考え方について紹介する。	同		
15回	テーマ	海外の博物館経営	対面	配布資料の復習	90
	内容	海外の博物館の経営手法について、海外の博物館行政や制度について概説する。	室内講義、小テスト		
16回	テーマ				
	内容	課題レポート			

科目名	★博物館資料論（2美デ）			開講学年	2	講義コード	2910701	区分	必修		
英文表記	Theory of Cataloging and Curation for Art Museum Collection			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	15		
担当教員	村上哲（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室					オフィス アワー 授業終了後の教室					
メールアドレス	artcuration0912@gmail.com										
キーワード	教養的知識 美術史の知識・理解 論理力 美術館 ミュゼオロジー 第一次資料 絵画 版画 コレクション キュレーション										
授業概要	博物館資料／美術館資料とは、博物館／美術館の活動の基底・基軸に位置づけられるものである。本講義ではこの観点に基づき、美術館資料の概念と位置づけ、キュレーターの役割と使命、作品の構造分析と歴史研究・調査・研究・取扱い、ミュージアリア(Musealia)からミュージアライゼーション(Musealisation)への展開、コレクションの形成・構築と収集の体系化への視座、作品資料の分類・管理・保存・継承を理解するとともに、内外の美術館の具体的な美術館資料を用いての課題研究と演習を通じて、博物館資料／美術館資料に関する基本的知識と普遍的概念を修得し、博物館学の他の科目の項目へも横断的に言及しつつ、芸術文化の存在意義と課題を考える。講義中のテスト・レポートの結果は、適宜学生へフィードバックする。							関連科目		その他の全学芸員課程科目(概論、経営論、資料保存論、教育論、展示論、情報・メディア論等)	
								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分								学修・教育目標			
								JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	人文科学・社会科学の諸学問について、基礎的な理解ができるようになる。美術館資料の概念と位置づけ、作品資料の調査・研究・取扱いの技術と知識を学ぶことにより、文化芸術への高度な専門性を獲得することができる。									
	②	自分の造形活動がどのような歴史的文脈の上に成り立つものなのか理解できるようになる。コレクションの形成・構築と収集の体系化への視座、作品資料の分類・管理・保存・継承を理解することにより、文化芸術への高度な専門性を獲得することができる。									
	③	個人で、または他者との討議を通じて、物事について論理的・多面的に思考することができるようになる。美術館の具体的な美術館資料を用いての課題研究と演習プレゼンテーションを通じて、文化芸術への高度な専門性を獲得することができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	20	0	10	20	100		
教科書	ランス美術館・絵画コレクション展 図録 ランス美術館展主催機関 ランス美術館、村上哲 他 パリ国立図書館・版画コレクション展 図録 パリ国立図書館版画コレクション展主催機関 パリ国立図書館、村上哲 他 キスリング・エコール・ド・パリの巨匠展 図録 キスリング展主催機関 マイテ・ヴァレス＝プレッド、村上哲 他 THE CURATOR'S HANDBOOK フィルムアート社 エイドリアン・ジョージ著										
参考書	新博物館学教科書 博物館学 I、II、III、IV 株式会社 学文社 大堀哲、水嶋英治 978-4-7620-2284-5 ほか 博物館展示論 株式会社 講談社サイエンティフィック 黒沢浩 978-4-06-156531-9										

博物館学の他の科目（概論、経営論、資料保存論、教育論、展示論、情報・メディア論等）の項目へも横断的に言及しながら、芸術文化資料の総合的な理解を目的とするため、体系的・包括的な考察を心がけること。

予備知識

実務経験
のある
教員

評価明細
基準

レポート(50点)、成果発表(20点)、ポートフォリオ(10点)、授業出席・授業態度・積極性(20点)

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	博物館資料／美術館資料の概論およびキュレーター(学芸員)という職業についての概念と役割、本課目のオリエンテーション	対面授業	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	博物館／美術館の活動の基底・基軸となる博物館資料／美術館資料の概論およびキュレーター(学芸員)という職業についての概念と役割を学び、本講義のスケジュールと履修内容についてのオリエンテーションを行う。	講義		
2回	テーマ	博物館資料／美術館資料の概念の形成・構築、調査・研究法と取扱い(1)	対面授業	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	学芸員として必要な博物館資料／美術館資料の概念・調査・研究法と取扱い(1)の枠組みで、ミュージアリア(Musealia)からミュージアライゼーション(Musealisation)への展開、作品の構造と歴史への視座を学ぶ。	講義、レポート課題		
3回	テーマ	博物館資料／美術館資料の概念の形成・構築、調査・研究法と取扱い(2)	対面授業	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	学芸員として必要な博物館資料／美術館資料の概念・調査・研究法と取扱い(2)の枠組みで、ミュージアリア(Musealia)からミュージアライゼーション(Musealisation)への展開、作品の調査・研究法と取扱いを学ぶ。	講義、レポート課題		
4回	テーマ	博物館資料／美術館資料のコレクションの形成と構築・体系化(1)	対面授業	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	国内美術館、県内美術館の事例を検証しながら、博物館資料／美術館資料のコレクションの形成と構築・体系化(1)(ヴィジョン・方針策定、作品リサーチ、所蔵者リサーチ、作品研究、来歴調査)に対する認識を深め、美術館での活用法を学ぶ。	講義、レポート課題		
5回	テーマ	博物館資料／美術館資料のコレクションの形成と構築・体系化(2)	対面授業	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	国内美術館、県内美術館の事例を検証しながら、博物館資料／美術館資料のコレクションの形成と構築・体系化(2)(関連作品調査、対外交渉、内外調整、借受・保管・管理、購入・寄贈・収集)に対する認識を深め、美術館での活用法を学ぶ。	講義、レポート課題		
6回	テーマ	絵画資料(油彩画、素描)の調査・研究・活用・分類・管理・保存	対面授業	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	美術館資料のうち、絵画資料(油彩画、素描)の調査・研究・活用・分類・管理・保存の方法を、フランス近代絵画(藤田嗣治/レオナルド・フジタ、エコール・ド・パリ関係等の作品)を研究素材にして学ぶ。	講義、レポート課題		
7回	テーマ	フランス・ランス美術館絵画コレクション、国内外美術館所蔵の絵画作品の調査研究と企画実例検証	対面授業	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	フランス・ランス美術館絵画コレクション、国内外美術館所蔵のキスリジグ作品による作品の調査研究と企画構成の実例を学びながら、調査研究と企画実例検証に対する認識を深め、美術館での活用法を学ぶ。	講義		
8回	テーマ	フランス・ランス美術館絵画コレクション、国内外美術館所蔵の絵画作品の調査研究と企画実例検証	対面授業	配布資料を再読して、講義と演習から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	フランス・ランス美術館絵画コレクション、国内外美術館所蔵のキスリジグ作品による企画実例を学んだことを踏まえて、コレクションの内容研究と企画構成(作品目録作成、調書作成、文献資料編纂、展示構成案の作成)に取り組む。	講義、演習		
9回	テーマ	フランス・ランス美術館絵画コレクション、国内外美術館所蔵の絵画作品の内容研究・企画構成演習のプレゼンテーションと講評	対面授業	配布資料を再読して、講義とプレゼンテーションから学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	フランス・ランス美術館絵画コレクション、国内外美術館所蔵のキスリジグ作品による内容研究・企画構成に取り組んだ公開プランのプレゼンテーションを実施し、各自の情報共有と意見交換、講師による講評を行う。	講義、プレゼンテーション		
10回	テーマ	版画資料(西洋古典版画、近代・現代版画)の調査・研究・活用・分類・管理・保存	対面授業	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	美術館資料のうち、版画資料(西洋古典版画、近代・現代版画)の調査・研究・活用・分類・管理・保存の方法を学ぶ。	講義、レポート課題		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションの調査研究と企画実例検証	対面授業	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションによる作品の調査研究と企画構成の実例を学びながら、調査研究と企画実例検証に対する認識を深め、美術館での活用法を学ぶ。	講義		
12回	テーマ	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションによる内容研究・企画構成演習	対面授業	配布資料を再読して、講義と演習から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションによる企画実例を学んだことを踏まえて、コレクションの内容研究と企画構成(作品目録作成、調書作成、文献資料編纂、展示構成案の作成)に取り組む。	講義、演習		
13回	テーマ	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションの内容研究・企画構成演習のプレゼンテーションと講評	対面授業	配布資料を再読して、講義とプレゼンテーションから学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションによる内容研究・企画構成に取り組んだ公開プランのプレゼンテーションを実施し、各自の情報共有と意見交換、講師による講評を行う。	講義、プレゼンテーション		
14回	テーマ	県内美術館視察見学研修(熊本県立美術館、熊本市現代美術館)	対面授業、学外授業	配布資料を再読して、講義と視察研修から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	県内美術館視察見学研修(熊本県立美術館、熊本市現代美術館)を実施し、美術館における美術館資料の調査・研究・活用等の実際を学ぶ。	講義、視察研修		
15回	テーマ	博物館資料／美術館資料に関する総括と展望	対面授業	講義全体を通して学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
	内容	博物館資料／美術館資料に関する総括と展望を行うとともに、博物館学の他の科目(概論、経営論、資料保存論、教育論、展示論、情報・メディア論等)の項目に言及し、芸術文化資料の総合的理解度を確認する。	講義、演習		
16回	テーマ			講義全体を通して学んだことを活用して研究課題のレポートを作成する。	180
	内容	「ミューゼオロジーのための研究課題」レポート作成	レポート作成		

科目名	★博物館展示論（2美デ）			開講学年	2	講義コード	2910801	区分	選択	
英文表記	Museum and Exhibition Studies			開講期	後期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	関根 浩子 中村 玲史（非常勤）									
研究室	本館1階 非常勤講師室 硯川棟101					オフィス アワー 授業時間後の講義室				
メールアドレス	co07gito@gmail.com									
キーワード	学芸員の仕事 独創的な企画立案 展覧会情報の収集・発信 博物館資料									
授業概要	<p>本科目は、学芸員資格取得を目指す学生の必修科目となっている。授業概要 1)キュレーターという存在とその役割について理解する。2)展覧会のアイデアを実際の企画として立案していく過程について理解する。3)展示空間のデザインと展示の実務について考察する。4)作品の配置、照明、鑑賞素材の準備など、来場者にとってより良い鑑賞の場を提供することについて考察する。5)予算、交渉、契約他、展覧会を支える諸業務について理解する。学修上の助言 1)テキストは前もって読んでおくこと。2)コメントシートは毎回提出すること。2)美術館や博物館、資料館等のスケジュールについて日頃から関心を持ち、折りに触れて自ら鑑賞の機会を持つこと。フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付して返却する形で行う。</p>						関連科目			
							関連科目 1)日本美術史 2)考古学と文化財Ⅰ、Ⅱ 3)生涯学習概論、博物館教育論、博物館概論、博物館情報・メディア論、博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	学芸員課程での学修と社会を関連付け、将来の職業を含めた自分の人生を主体的にデザインすることができる。								
	②	博物館展示論の学習を通し、独創的な提案を立案・実行することができる。								
	③	適切な方法で正しい情報を収集及び発信できる。								
	④	博物館展示について基礎的な理解ができる。								
	⑤									
	⑥									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計	
	30	30	0	0	0	0	10	30	100	
教科書	THE CURATOR'S HANDBOOK フィルムアート社 エドワード・ジヨン 978-4-8459-1561-3									
参考書	文化財の保存環境 中央公論美術出版 東京文化財研究所 978-4-8055-0648-6 学芸員のための展示照明ハンドブック 講談社 藤原 工 978-4-06-156521-0 美学入門 朝日新聞出版 中井正一 978-4-02-259132-6 美について 講談社現代新書 今道友信 978-4-06-115724-8									

予備知識	予備知識 1)日本美術の流れや時代ごとの特徴、歴史的な文化財や著名な作品、作家に関する一般的な知識。2)西洋美術の流れや時代、国、地域ごとの特徴、歴史的な文化財や著名な作品、作家に関する一般的な知識。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1)受講生は毎回の講義でコメントシートを記入し、提出する。コメントシートは、授業者にとっては、受講生が授業内容をどのように受け止めたか、それについての考察はどうか、という点を把握するためのものである。受講生にとっては、授業内容を整理し、さらにそこから派生する自己の課題と向き合うためのものである。2)前半分と後半分の授業に関する中間テストと定期テスト(各30点)によって評価する。3)以上に加えて、授業態度等を加味して評価を行う。

1)美術館や博物館、資料館等のスケジュールについて関心を持ち、折りに触れて自ら鑑賞の機会を持つように心掛けること。会場で気付いた事柄は、その都度メモを取っておくようにする。その際にはインクを用いたペンではなく鉛筆を使用すること。2)指定の教科書にとどまらず、参考書、関連図書に挙げた書籍も読んでおくことが望ましい。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	学ぶにあたって 美とは何か	対面	復習:配布資料の再読	30
	内容	美しいといふことの意味	講義		
2回	テーマ	キュレーターとは	対面	復習:配布資料の再読	30
	内容	キュレーターとは何か	講義		
3回	テーマ	展覧会の企画	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	アイデアとインスピレーション、展覧会概要の文書化、展示作品のリスト作成等	講義		
4回	テーマ	展覧会の予算と資金調達、交渉、契約	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	予算の編成、スポンサーの獲得、交渉、契約、展覧会のスゲジュエーリング等	講義		
5回	テーマ	展覧会の出版物、広報物	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	カタログ作成、執筆依頼、著作権、冊子やパンフレット、ポスター、チラシ等	講義		
6回	テーマ	展示空間のデザイン、空間と来場者	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	空間を歩いた際の展覧会デザイン、作品の配列、テクノロジー、空間と来場者アクセス等	講義		
7回	テーマ	作品借用関連手続き、作家との共同	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	借用依頼、設備の報告、作家や作品貸与者との交渉、作家と共同する場合等	講義		
8回	テーマ	中間試験	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	前半分 筆記試験			
9回	テーマ	作品輸送と受入れ	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	保険、補償、輸送、作品到着後の対応等	講義		
10回	テーマ	解説素材の執筆と作成	対面	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	キャプション、コーナーパネル、リーフレット、プレスリリース、広報資料等	講義		

授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	作品展示設営	対面 講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	作品の取り扱い、展示設営スケジュール、作品の固定、展示備品等			
12回	テーマ	照明	対面 講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	既設のシステム確認、作品素材による照明レベル、空間の快適性と光等			
13回	テーマ	スタッフの共通認識、オープン	対面 講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	スタッフの共通認識、セキュリティ対策、展覧会オープン等			
14回	テーマ	会期中の業務、イベント関連	対面 講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	会期中のルーティンワーク、イベント、教育普及、問い合わせ対応等			
15回	テーマ	作品撤収、返却 講義のまとめ	対面 講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	会期終了後の作品撤収、返却等			
16回	テーマ	定期試験			
	内容	後半分 筆記試験			